

# 村山総合支庁管内の取組状況と地域課題等について

## 1 山形連携中枢都市圏

### (1) 山形連携中枢都市圏形成の主な動き

- R1.6 山形市長が連携中枢都市宣言(6/27)
- R2.1 山形市と5市6町が連携協約締結(1/9)
- R2.4 山形市と5市6町による連携事業開始(33事業)
- R3.1 山形市と尾花沢市、大石田町が連携協約締結(1/12)
- R3.4 山形市と6市7町による連携事業開始(39事業)

#### ◆山形連携中枢都市圏ビジョンで定める主な連携事業

区分	主な連携事業
ア 圏域全体の経済成長のけん引(8事業)	・新卒者への地元・企業情報等の共同発信 ・圏域特産品等の販路拡大の促進
イ 高次の都市機能の集積・強化(6事業)	・連携中枢都市圏公共交通ネットワーク協議会の設置・運営及び事業の実施 ・保健所・大学を活用した健康等に関する共同研究と利活用
ウ 圏域全体の生活関連機能サービスの向上(25事業)	・病児・病後児保育施設の広域利用 ・山形広域炊飯施設建設事業

### (2) 現状と課題等

- 進捗が進んでいる事業に関しては、経費縮減効果等を評価する声がある。  
例：固定資産税課税用等航空写真図整備事業(R2実施)、山形広域炊飯施設建設事業(R3整備)
- 一方で、進捗がこれからという事業が多く、一部市町において事業の成果が見えにくいなどの声がある。

### (3) 村山総合支庁における取組みと今後の対応

- 平成28年度から、連携支援サポートチームの支援テーマの1つとして「連携中枢都市圏形成支援」を設定し、広域連携制度の現状や先行事例に関する研究会、地域公共交通対策や移住施策に関する研修会等を開催してきた。
- 山形連携中枢都市圏の具体的な事業内容の検討や本格的な事業の開始は令和3年度以降となっていることから、検討状況や事業の進捗等について情報収集を行い、本庁との連携・調整もしながら、必要に応じた支援を行っていく。



■R3.1.12 連携協約締結式



■広域利用が実施される病児・病後児保育施設

## 2 村山保健所の体制強化と山形市保健所への支援

### (1) 村山保健所の体制強化(新型コロナウイルス対応等)

- 令和3年4月から保健企画課に医務専門員ポストを新設し、新たに医師1名を配置したほか、保健師2名(うち1名は事務職員との振替)を増員配置
- 保健福祉環境部における緊急業務体制を構築し、複数の患者が同時に発生しても疫学調査や移送などに速やかに対応できる体制を整備
- 3月中旬以降に急増した感染者の情報管理や電話対応等の事務に従事するため、3月29日以降、本庁舎から保健所に職員を派遣
- 令和2年12月以降、感染者急増時に県立保健医療大学から応援職員を派遣してもらい電話相談や濃厚接触者への健康観察を実施  
また、令和3年3月以降は、山形県ナースセンターの紹介による看護師や県退職保健師の協力も得て、急増した在宅療養者の健康観察に対応

### (2) 山形市保健所への支援

- 山形市保健所の安定した運営に向けた支援として、山形市に県職員を派遣するとともに市職員の研修派遣を受入れ

#### ◆県職員の派遣人数

	薬剤師		保健師		獣医師		計	
	県	(うち村総)	県	(うち村総)	県	(うち村総)	県	(うち村総)
令和元年度	5名	(5名)	2名	(2名)	7名	(2名)	14名	(9名)
令和2年度	5名	(5名)	2名	(2名)	3名	(1名)	10名	(8名)
令和3年度	3名	(3名)	1名	(1名)	2名	(0名)	6名	(4名)

#### ◆研修派遣受入人数

平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
県	(うち村総)	県	(うち村総)	県	(うち村総)	県	(うち村総)	県	(うち村総)
10名	(8名)	23名	(13名)	1名	(1名)	2名	(2名)	2名	(2名)

- 新型コロナウイルス対応においては、感染者の居住地と勤務先等が保健所の管轄区域をまたぐような事案に対して、積極的疫学調査の結果を共有するなどして迅速かつ的確な対応を支援
- 3月下旬から4月下旬にかけて山形市で新型コロナウイルス感染者が急増した際は、最上・置賜の両保健所から市保健所に保健師を派遣



### 3 地元大学と連携した取組

#### (1) 地域づくり活動の「芽出し」支援

##### ○ 地域づくり活動調査研究事業

大学の知見を活用し地域課題解決に向けた地域主体の実践活動の立ち上げ支援や地域住民との交流を図るため、県内大学に在籍する大学生で構成されるグループ（ゼミ等）に地域の現状調査、地域活性化提案等に係る実態調査を委託。



大学生による現地調査

- ・山形大学が6地区、東北芸術工科大学が1地区の7地区、延べ11件実施（H28～R2）。
- ・提案を受け、雪まつりの開催（山形市高瀬地区）、山形大学祭での特産物の販売（中山町柳沢地区）を行った。
- ・地区の祭りの運営を学生が手伝う等の交流が継続。地域住民の生きがいになっている。（山形市高瀬地区）
- ・令和3年度は、山形大学に委託し、天童市田麦野地区について事業を実施。

#### (2) 若者人材の確保

##### ○ 働いてよし 暮らしてよし 村山の企業情報発信事業

- ・管内の高卒就職者のうち県内就職は85.2%、大卒就職者のうち県内就職は28.7%（R2.3月卒業者）。
- ・大学生の県内就職率が低いため、大学生の地元定着、地元回帰を図る必要がある。
- ・山形大学の学生が管内企業の若手社員を取材し、地元企業の魅力や地域で働くこと暮らすことの良さをSNS等により情報発信。
- ・令和2年度の閲覧数は、インスタグラム32,136件  
※インスタグラムを見て、取材企業に興味をもち、当会社の説明会へ来訪した者あり
- ・令和2年度は20社を取材。令和3年度は25社ほどに取材企業を増やし、女性が活躍している地域企業の情報も積極的に発信する。



Instagram画面

#### (3) 活力ある地域づくりの促進

##### ○ 観光による地域づくり促進事業

- ・令和2年度に東北芸術工科大学の学生が、ワイナリーや工芸体験などの上山市の地域資源を活用した自由度が高くリラックス感のある学生ならではの旅行商品を企画。
- ・上記企画にもとづき、やまがた広域観光協議会・東北芸術工科大学・上山市観光物産協議会が連携し旅行商品化。
- ・令和3年度は、引き続き東北芸術工科大学と連携し、管内他市町の資源を活用した旅行商品を企画するなど、事業の拡大を図る。



大学生による旅行商品企画発表会

### 4 農業振興

#### (1) さくらんぼ生産の取組み等

##### ① 現状

- ・村山地域は、県産さくらんぼの約9割を占める大産地
- ・さくらんぼの品種は、約8割が「佐藤錦」で、他は「紅秀峰」、「紅さやか」等
- ・担い手の高齢化、労働力不足により、栽培面積は減少傾向

##### ② 課題

- ・品種構成：「佐藤錦」を中心としながら、労力分散を図るため優良品種導入が必要
- ・既存の樹形では高所作業が多く、作業労力大→軽労的な仕立て方の普及が必要

##### ③ 施策内容及び今後の対応等

- ・新品種：「佐藤錦」、「紅秀峰」に加え、大玉新品種「やまがた紅王」を普及拡大中  
令和5年の本格販売に向けた栽培管理の普及指導
- ・作業、労力：作業しやすい軽労的な仕立て方（平棚、Y字、V字仕立て等）の導入促進、1日農業アルバイトアプリを活用したマッチングの試行



平棚仕立て



Y字仕立て



V字仕立て

- ・凍霜害対策：4月の凍霜害を受けて、開花期の人工受粉等の確実な実施や、土壌水分確保について指導を実施。今後は結実状況を確認し、樹全体で着果量を確保するよう指導  
次年度に向けては、適期の薬剤防除、新梢管理の徹底により、花芽充実を図る
- ・観光果樹園：昨年は多くが営業を自粛したが、今年は開園予定。やまがた広域観光協議会ホームページ上で、観光果樹園情報を発信

#### (2) スマート農業の推進

##### ① これまでの取組み

- ・北村山地域の代表的な作物であるすいかは、「夏すいか日本一」のブランド（R1産出額56億円）
- ・産地強化のため、農林水産省公募型事業「スマート農業実証プロジェクト」を活用し、すいか栽培一貫体系の現地実証研究を実施（令和元～2年度）

##### ② 令和3年度からの取組み

◎これまでの事業成果を活かし、県単事業「農林水産デジタル化推進事業」により現地実装等を図る

- ・すいかの収穫日予測：気温センサーデータの積算気温から収穫適期を予測→生産者へ情報提供し産地支援
- ・小型気象観測装置での病害発生予測→産地支援

◎実証プロジェクトで導入した高精度GPSを活用し、すいか以外の作物へのさらなるスマート技術の普及を図る

- ・トラクター等の自動操舵運転、ドローンの自動飛行による水稲への農薬散布



ITツールで生産工程管理



## 5 令和2年7月豪雨災害への対応

管内の道路や河川等公共土木施設については、合わせて215箇所（道路65、河川150）、約46億円の災害査定を受けている。

### 【応急工事の完了】

次期出水等により、被害箇所の背後地に甚大な被害を与える恐れが大きい堤防決壊箇所等については、令和2年8月中に応急工事により対策が完了している。

代表事例：本沢川（山形市大字長谷堂地内）

左岸

右岸



### 【復旧工事の状況】

復旧工事については約75%が発注済み。県民生活に大きな影響を及ぼしている箇所など、優先度の高い箇所から復旧工事に順次着手。

### 【今後の留意事項】

今後、梅雨や台風の時期を迎えるにあたり、再度の災害や工事の手戻りを極力防止するため、水位上昇を考慮した仮設を行うとともに、気象情報や水位情報等にも留意し、安全かつ計画的に工事を進めていく。

## 6 最近の話題

### ■「慈恩寺テラス」オープン（寒河江市）



国史跡「慈恩寺」の魅力が240度円形シアターによる迫力映像で紹介し、飲食等休憩スペース「寺そば・寺カフェ」を備えた総合案内施設「慈恩寺テラス」が5月1日（土）オープン。特別企画として「夜のプレミアム拝観」も実施。

また、4月29日（木）から「慈恩寺テラス」のPRのため、JR左沢線で「木造十二神将立像」の姿をラッピングした車両を運行。

### ■天童温泉で新源泉と温泉槽完成（天童市）



天童温泉で4月22日（木）、新たな「10号源泉」とシンボルとなる「温泉槽」が完成。高さ約10mの槽（やぐら）は田んぼから温泉が湧き出た開湯当時の様子をイメージしたもの。

### ■山形美術館のイベント好評（山形市）



4月2日（金）から5月9日（日）まで開催された「木梨憲武展」は目標の2万人を上回る2.7万人超の来場者。

7月17日（土）から8月27日（金）まで「国立西洋美術館 巡回展示」を開催予定。

### ■東北DC特別企画の例

◇山寺早朝特別開放. 朝から絶景！ブランド米食べくらべin山寺（山形市：5月～6月）

◇天然ジュンサイ採って食べ！&最上川三難所そばプラン（村山市：6月上旬～7月下旬）

### ■地域商社「かほくらし社」設立（河北町）



河北町の地域課題を行政と連携して解決しようと、町内外の企業4社が4月14日（水）に地域商社「かほくらし社」を設立。

町商工会が都内で運営するアンテナショップ「かほくらし」の運営を受託予定のほか、町内産イタリア野菜やナッツの加工品開発、町内産ワインの醸造所の設立に向けた調査等を進める。

### ■東北中央道 村山北～大石田村山間 令和3年度に前倒し開通予定

（村山市・大石田町）

#### 東北中央自動車道の整備状況



4月27日（水）、国土交通省は東北中央自動車道の「（仮称）村山北IC～大石田村山IC」間（延長4.5km）が令和3年度内に開通する見通しであることを発表。

「東根北IC～（仮称）村山北IC」間（延長8.9km）は令和4年内に開通する見通し。

### ■徳良湖畔の「Goose Cafe」が人気（尾花沢市）



徳良湖オートキャンプ場管理棟内に「Goose Cafe」がオープン（R2.7）し、人気を集めている。

仙台市内でカフェ経営の経験を持つ尾花沢市地域おこし協力隊が運営。同施設では閉校した学校のテーブルやいすを使用。ブルーベリーなど尾花沢産果物を使用したスイーツが人気。

◇大自然を満喫！最上川ラフティング&農家民宿でバーベキュー（朝日町：5月～10月末）

◇蔵王御釜マジックタイム（夜明け前～日の出）ツアー（上山市：7月～9月）